

予稿執筆要領

— 抄録集の統一感を維持するために —

○認 知子¹(みとめ ともこ), 神 経子^{1, 2}, 心 理 学²

¹未来大学医学部, ²未来大学認知神経センター

(要旨) 認知神経心理学研究会の発表者は、様々な分野で活躍している研究者であり、普段の活躍の場が異なれば、研究発表の形式も、論文の形式も異なるのが通例である。このような研究者が一堂に会す本研究会の予稿執筆あたって、最低限の形式を定めることは、聴取者が発表内容を理解するのを容易にし、また、発表者の執筆時の手間を省くための一つの手段として有効であると考え。さらには、整った形式で記録に残すことで、本会の今後の発展にも寄与するものと考え。

Key words: 認知, 神経, 心理学, 脳モデル, 失語症例, 脳イメージング

1. はじめに

本研究会の予稿執筆にあたっては、これまでもサンプルが提供され、執筆者がこのサンプルをベースに執筆を行うことによって、抄録集の見栄えをよくし、過去の記録を辿る際にも重要な役割を果たしてきた。また執筆者にとっては、予稿の形式を考える手間を省き、発表内容の記述に集中することができた。

本年も、これまでのサンプルとほぼ同様の、この予稿執筆要領ファイルを提供することによって、抄録集の見栄え、理解容易性の向上、および、執筆者の省力化を目指す。

2. 全体

全体のフォーマットは以下のとおりとする。

- 1) 2ページ以内
- 2) A4縦
- 3) 余白(上35mm, 下、左右30mm)
- 4) ページ番号はふらない
- 5) ファイルヘッダは指定のとおり

3. ヘッダ部分

3.1 題名

主題: 主題は発表内容を簡潔に示す様、十分に吟味して設定し、1行に収まることを推奨する。フォントはゴシック系を用い、14pt、中央揃えとする。

副題: 副題は発表の主題を補足するために必要な場合に十分吟味して設定し、主題とは別の行に記述し、一行に収まることを推奨する。フォントはゴシック系を用い、11pt、中央揃えとする。

3.2 著者

著者名および著者所属のフォントはゴシック系を用い、11ptとする。また、著者名と主題(副題がある場合は副題)との間に空行を一行(14pt)入れることとする。複数の著者名、所属名は半角カンマで区切って連続して記述する。但し、名前、所属の途中で改行が入らぬ様、改行を行うこととする。

著者名: 著者名は、共著発表者すべてを列挙する。姓名の間は半角空白を挿入する。また、実際に研究会で発表する者の頭に○を付し、名前の後に括弧書きにて名前の読みをひらがなで付すこととする。

著者の所属が異なる場合は、所属との対応がつかないように番号を右肩に付与することとする。

著者所属: 著者の所属は、組織名と部門名とし、過度に長くならない様、理解し得る範囲で省略形を用いることを推奨する。部門名については、著者の判断でどのレベルで記述するかを決定するものとする。

共著発表者で所属が異なる場合、著者名に付した番号と対応させて所属の左肩に番号を付すこととする。

3.3 著者連絡先

著者代表への連絡先を、1ページ目下余白に記入する。但し、この予稿は研究会当日に参加者に配布されるだけでなく、研究会のホームページにてPDF形式でダウンロード可能とするので、何を記述するかは著者の判断でお願いしたい。通常は、代表者氏名、連絡先住所、連絡先が所属である場合は、所属名、電話、e-mailアドレス等。

3.4 要旨

要旨は、発表の内容を簡潔にまとめて、200字程度を目安に記述する。(要旨)に続けて1パラグラフで記述する。フォントは、ゴシック系10ptとし、中央、両揃えとする。

3.5 キーワード

発表の内容を端的に表す単語(複合語を含む)を、3～5語程度キーワードとして示す。Key word: に続いて、できるだけ一行以内に収めることを推奨する。

フォントは、ゴシック系10ptとする。

4. 本文

本文は、2段組とし、フォントは明朝系10ptとする。

4.1 見出し

見出しは、フォントをゴシック系とし、第2レベルまでは以下を推奨する。なお、大見出し、中見出しに番号をつける場合は、半角アラビア数字を用い、ピリオド区切りとする。本ファイルでは番号を付与した。ここでは、「はじめに」から「おわりに」としているが、これに限る必要はない。

大見出し： 大見出しは中央に見出し単独で記述する。

中見出し： 左寄せで見出し単独で記述する。

第3レベル以下： 第3レベル以下を必要とする場合には、レベルが深くなりすぎないように吟味した上で、各著者の工夫でわかりやすく組み立てていただきたい。

4.2 引用

他の研究文献の引用は、必要最小限のものについてのみ示す。形式は、基本的に以下の方法を推奨する。

本文中： 著者名と発表年を括弧書きで示す。著者が3名以上の場合は、日本語では「〇〇ら」、英語では、「** et al.」という表現を初出であっても許す。

または、予稿が2ページ以内という制限上スペースが限られること¹⁾、英文、和文の引用が混じることが多く、順序を規定することが難しい場合が多いため、本例のように、文中のしかるべき場所に右肩に出現順の文献番号を示してもよい。

文献リスト： 本文中で引用した文献は、文献情報

を論文の最後に必ず明記することとする²⁾。ここで最低限必要な情報は、著者名、発行年、掲載誌名(または会議名等)とし、これらは必須とする。但し、長い題名、副題については、その文献を特定できる範囲で省略可能とする³⁾。

文献欄の順は、著者名で文中で引用した場合は、アルファベット順(日本語文献の著者もローマ字表記相当で並べる)とする。文中で文献番号を付与して引用した場合は、文献番号順(出現順)に並べて示す。

また、文献リストはスペースによっては9ptとすることも可能とする。

4.3 図表

図表は、本文中の説明で指定できる様、図、表別に番号を付与し、図表の名前をつける。図の説明はキャプションだけでなく、本文中で説明することを推奨する。

4.4 脚注、フットノート

脚注、フットノートの使用は極力避けることを推奨する。

5. おわりに

本ファイルの形式をそのまま用いることを強く推奨する。但し、このファイルそのままを用いることはもとより、ここで記述した形式を強制するものではない。認知神経心理学⁴⁾という幅の広い分野の研究者が活発な議論を交わすためのあくまでも一助をなすであろう形式を示したにすぎない。

また、英語で原稿を作成する場合は、このファイルを参照の上、全体として見た目が類似するように形式およびフォントの大きさを設定し、全体のバランスを整えていただきたい。

<謝辞>

必要な場合にのみ、ゴシック系9ptで記述。

<文献>

- 1) 近藤 (2005) 第8回認知神経心理学研究会発表募集要項. <http://www2.tmig.or.jp/CNP/WWW.html>.
- 2) Xxx & Yyy (199?) Zzz model. ABC Journal of Cognitive Neuropsychology M(n), 1-9.
- 3) Wydell et al. (2004) Case studies of English- ... Dyslexia. Proceedings of CNP2004.
- 4) 辰巳 (1998) 認知神経心理学とは. 第1回認知神経心理学研究会抄録.